

令和５年度 第２学年 授業改善推進プラン

稲城市立若葉台小学校

教科	課題	課題に対する指導方法等の改善策
国語	○知識・技能 ○思考・判断・表現 ◎主体的に学習に取り組む態度 ○漢字の活用、語彙力に課題がある。新出漢字の学習には意欲的だが、語彙が少なく、学習した漢字を文章の中で活用する力が不十分である。 ○文章を書く力や、書いた文章を読み直して校正する力が不十分である。主語述語のつながりが合っていない文や「お・を」「わ・は」の使い間違えが多い。文章の構成力にも差が見られる。 ○読解力が課題である。文章を正確に読むことに個人差があり、思い込みやイメージで捉えている児童が多い。文章読解の力不足とともに、問題を読めていない児童が多く、テスト等では、聞かれていることに正対してない誤答が目立つ。 ◎文章や自分の考えを書く際に何を書けばよいか分からず、課題の取り組みに時間がかかる。自分が書いたことに自信をもてず、意見を伝えることに躊躇する児童が多い。	○知識・技能 ○思考・判断・表現 ◎主体的に学習に取り組む態度 ○日記や作文など具体的な文章を書く機会を多く設け、その中で漢字の指導を行う。新出漢字の学習の際には新しい熟語や短文を考える機会を設ける。新しい単元を学習する際には意味調べや検討などを行う。 ○日記や作文など具体的な文章を書く機会を多く設ける。自分の思いや考えを書く場面を増やす。書いたものを友達と読み合う機会を設ける。文章を書いたときには自分で一語ずつまたは言葉のまとまりごとに読み直させる。段落や段落ごとに書く内容を指導する。 ○朝学習などで読書の時間を保障する。叙述に沿っているか、本文を見直して言葉や文章から根拠を見付けるようにする。問題文では大事な部分に線を引かせ、ワークシート等で様々な問われ方の問題に触れられるようにする。 ◎書くことが苦手な児童には型を用意するなど、個別に合わせた課題提示を考える。また、友達に伝える際は、事前に個別や少人数での確認時間や練習時間をとり、自信も持たせる。
算数	○時計の時針(短針)を正確に読み取ることができない児童がいる。 ○計算問題を確実に解くことができる児童とそうでない児童の差が見られる。 ○文章の問題を正確に読み取ることができていない、単位を書いていないというような正確さに欠ける。 ◎学習したことを生活に結び付けたり、他の教科に活用したりすることが苦手な児童が多い。	○生活の中で、時間を意識した声掛けをする。教室には、デジタルの時計ではなくアナログの時計を掲示する。 ○簡単な足し算や引き算の問題を繰り返し解き、正解する機会を多く設けることで苦手意識をもたせない。計算の手順を繰り返し確認する。 ○文章問題を音読し、文を正確に読むことを繰り返し行う。自分が読んでいない時も、文章の文を指で指し、文字を正確に目で追いかける。 ◎学習したことを活用できるように日常生活や他の教科での活用方法を提示する。
生活	○公共物、施設の利用は地域により、扱える内容に偏りが出てしまう。家庭の状況によって利用状況に差がある。 ○昆虫や植物に対して知識や興味はあるが、触れ合う経験が少なく、思ったこと、感じたこと、気付いたことを表現することが難しい児童が多い。 ○学校外での活動や地域の人々との交流を再開していく。施設によって、交流や見学ができない施設もあるので、事前の調査や依頼を綿密に行う必要がある。 ◎児童の「やりたい!」や「知りたい!」の気持ちを引き出す授業計画にしていけることが必要である。	○家庭への協力を仰ぎ、長期休みなどで公共物、施設の利用を促す。また家庭生活の中での利用を促す。 ○昆虫や植物と直接触れ合う活動を増やし、経験したことから具体的な知識・技能の育成に励む。昆虫や植物の学習に適した時期や場所での学習を計画的に組み込んでいく。 ○交流する機会を取り入れ、関わることのよさや楽しさを経験させる。施設や人への交流や見学を依頼するために、事前の調査や学習計画を綿密に行い、丁寧に依頼をする。 ◎タブレットで図鑑をスキャンしたデータを児童に共有し、一人一人が興味をもったことについて調べられる環境をつくる。
音楽	○歌唱や鍵盤ハーモニカは技術的なものの指導をもう少し丁寧に行う必要がある。 ○音符は拍で感じ取れるようになってきたが、休符を拍で感じ取ることが苦手な児童が一定数いる。 ◎歌唱時、歌わずに他の児童の歌声を聴いているだけの児童が多い。	○楽しく活動することを第一に考えつつも、発声の仕方や、鍵盤の指使いやタンギングの指導を計画的に行う。 ○メトロノームを使ったリズム読み、解明読みの時間を増やし、拍の感覚をもてるようにする。 ◎マスク生活だった影響が大きいのかもと考えている。最終的に、表現や技能としての評価ができるように、発話、発声等の機会を多くもつように、表現することに臆することがなくなるような授業環境を作る。

図工	○絵の具の薄め方や筆の扱い方、色の塗り方などに課題のある児童がいる。 ○はさみや糊の使い方に慣れていない児童がいる。 ○例を提示すると、その通りにつくってしまい、感じたことや材料などから発想し自分の思いを表現することが苦手である。 ◎想像力を膨らませて絵や作品をつくれるように手立てを考える。	○絵の具を使った学習の際に、その都度使い方を確認する。また、色の濃さや筆の使い方を見ながら机間指導をしたり、友達の作品を紹介したりする。学習では、筆の使い方、色のつくり方を学べるような題材を取り入れる。 ○はさみや糊の使い方は、紙の向きや道具の動かし方、道具の置き場、丁寧に扱う方法など具体的に教える。その上で、日常的に活用していく。 ○例を提示しすぎずに、児童自身が自由に考えてつくれるよう、提示の仕方を工夫する。 ◎めあてを明確にし、手順を理解させ、想像できるように資料を提示する。
体育	○持久力に課題がある。精神面でも粘り強さに課題がある。 ○基本的な動きが、まだ、未熟である。コロナ等による制限のため、遊具等の遊びもできないことが多い。筋力も低下している。 ○運動の仕方を創意工夫する力に課題がある。どうしたらよりよく運動できるか思考しながら運動できていない。 ○内容やルールの理解に課題がある。ゲームなどでは内容やルールの理解に時間がかかり、十分な運動量に達していない。行動の遅さも目立つ。 ◎向上心に課題がある。新しい課題や苦手な課題への抵抗が大きく、できないことや失敗を避けようとし、大きく活発な動きが少ない。	○鬼遊びや走ることを楽しく長く続けられるよう学習の中に取り入れる。 ○ワークシートや話し合いで動きのこつを言語化したり伝え合ったりすることで、より良い体の動かし方を考える視点をもたせる。 ○授業の手順を説明する際は言葉を削り、手本や動画を見せるなど時間の短縮と分かりやすさを目指す。体育の学習中は基本駆け足であることを指導する。 ○休み時間の外遊びを励行する。体作り運動や体ほぐしの運動で様々な運動経験を取り入れる。 ○運動量を確保できるよう、体育館の冷房を利用したり、待ち時間が少なく緩急のある指導を意識的に行ったりする。 ◎友達同士の教え合いや手本を示すことで、身近な目標を設け、スモールステップで新たなことに挑戦する気持ちを養う。励ましの声かけや失敗して当たり前という学級経営を普段から意識的に行う。
道徳	○話の内容は理解できているが、価値項目を意識して学習していない児童が多い。よって、主題から外れてしまう児童がいる。 ◎振り返りを書く際、自身の経験につなげて考えることができない児童が多い。	○教材の提示の仕方を工夫したり、価値項目を板書したりして今日の学習のめあてや目標を意識させる。 ○主題にせまれるように発問を吟味し、十分に児童に考えさせる時間をとる。 ○話し合い活動や役割演技を取り入れ、登場人物に共感できるよう工夫する。 ◎例を出したり、振り返りの前に自身の経験を想起させる時間をとったりしてから、ワークシートに取り組ませる。